令和6年度 NPO 法人川に学ぶ体験活動協議会 事業報告書

１．総括

令和 6 年の夏はとても暑い夏であったが、コロナの影響もなくなり各地域では活発に水辺活動が行われた。しかしながらそれに伴い水難事故も発生した。各団体の講習会開催については、水難事故の発生を鑑みると、指導者講習会の数は少ないと思われる。加えて、受託による講習会が少ないことは、RAC の経営にも影響を与えている。

E ボートの乗船会については比較的多かった。名古屋庄内川、荒川放水路通水 100 周年記念イベント、多摩川、狩野川など各地で E ボート乗船体験などを行った。

写真 1. 荒川放水路通水１００周年記念 E ボート乗船会

（荒川岩淵水門）

資器材のレンタル販売については、年度当初に仕入れした子ども用ライフジャケット 300 着は順調に販売することができ、R7 年度に向けて更に 200 着を追加している。レンタルについては、ほぼ例年並み/っで順調であった。

東京都の商品等安全対策協議会がライフジャケットの適正な着用の推進を図ることを検討し、報告書を出した。それにより、RAC の名前が公的にも発出されたが、知名度の低さや資金不足などにより経営は決して良好とは言えず、次年度以降に向けて、組織や運営の改善が必要な状況になっている。

会員の入会状況

種別 / 会員区分	団　体		個　人	
	R5	R6	R5	R6
正会員	75	73	6	6
一般会員	30	20	0	0
賛助会員	0	0	0	0
計	105	93	6	6

（R 7 年 3 月 31 日現在）

２．会議

（１）理事会 ― 令和 5 年度の活動報告・会計報告、令和 6 年度の活動計画・収支予算等について審議の上議決した。

[開催日時] 令和 6 年 5 月 25 日（土） 13：30～14：30

[開催場所] 東京都 江東区 東京海洋大学越中島キャンパス
住所：東京都江東区越中島 2-1-6

（２）総 会 ― 令和 5 年度の活動報告・会計報告、令和 6 年度の活動計画、収支予算等について審議の上議決した。

[開催日時]　令和６年５月25日（土）　14：30～17：00
[開催場所]　東京都　江東区　東京海洋大学越中島キャンパス
住所：東京都江東区越中島 2-1-6

（３）常任理事会　―　業務執行に関する検討や講座及び資格の認定審査を行った他、下記の日程で業務進捗状況、財政状況の確認等を行った。

[実 施 日]　第１回　令和６年　４月26日
第２回　〃　９月15日
第３回　令和７年　１月10日
第４回　〃　２月26日
[場　　所]　すべてZOOM会議

（４）専門部会・委員会

下記の専門部会ごとに主な事業を推進した。

①　企画総務部会

全国大会は令和６年９月に長野県大町市で開催。令和６年３月には東京海洋大学（東京）にてトレーナーミーティングを開催し、RACのこれまでの取組みと現状の把握から、今後の運営体制について総会への提案を前提に骨格をとりまとめた。

RAC認定川育ライフジャケットの子ども用を300着入荷し、225着をクリアウォーターの協力により販売した。

RACの事業管理を見える化するために、EXCELで仕訳管理用のシステムを構築したものの活用及び会計方法の改善は今後の課題となっている。

②　人材育成部会

指導者講習会と認定制度は組織の根幹をなすもののひとつです。
近年、講座開催が減少気味で開催数が伸ばせなかった。

・RACリーダー、インストラクター講座

手軽に開催できて参加者の集めやすい日帰りのアシスタントリーダー、アシスタントインストラクター講座を準備したが今一つ伸びていない。また、受講者のリーダー、インスラトラクターへの変更も進んでいない。

・Eボート指導者講習会

Eボート活用事例の収取と指導者講習会を２日間長良川で実施した。この成果を基に来年度のEボート３０周年記念事業につなげたい。

・シャワークライミングガイド

シャワークライミングガイド講習会は要望があるものの講習会を２回しか開催できなかった、

・トレーナー資格更新トレーナーミーティング

トレーナーの資格更新とトレーナーに参加してもらい意見交換も含めて開催できた。
RACと各地の会員団体をつなぐ需要な役割がトレーナーです。トレーナーの若返りやトレーナーの不在地域の解消という課題も見えてきた。

・各種付加資格講座

子どもの水辺安全講座、初めての川遊び教室、水辺の生きもの講習、水辺のリスクマネジメント講座、水辺のレスキュー講習、水辺のファーストエイド講習、レスキューインストラクター講習会など各種の付加資格講座があるがあまり動いていないので再編成する課題がある。

③　学校連携部会

学校連携部会ではR5年度に引き続き、水や河川環境を活用した幼児教育プログラムをテーマに、こども園等で導入をする際の後押しとなるよう、プログラム作成におけるポイントと実施に伴う園児の変容をまとめた。

川の体験活動のプログラム作成及び実践には、地域の指導者との連携が重要になるので、検索方法や打合せの際の確認事項などをまとめた。各種プログラムの詳細や安全管理（装備・人員配置・事故対応等）については、発行された【水や河川環境を活用した幼児教育プログラム例】を参照してもらうこととし、本書では計画段階で必要となる項目やポイントをまとめた。

【水や河川環境を活用した幼児教育プログラム例】を参考に、4件のこども園を対象にして、体験プログラムの実施とプログラムに伴う変容の調査を行った。変容については、プログラムの実施前後での発言や行動の変化について保育士からヒアリングを行い、【幼児期の終わりまでに育って欲しい姿】に沿って整理するとともに、保護者の声なども記載した。

③　組織強化部会

・引き続き東京葛西のカヌースラロームセンターを活用した水辺の安全講習をライフセービング協会と共に実施した。事業化としてはなかなか難しい。鈴木理事、安田理事につないでいただき二子玉川の髙島屋さんでEボートを使った体験と座学をミックスした新規事業をおこなうことができた。各地でも地元の企業などとの連携で新しい事業を作り出していければと思う。
・引き続きこれまでRACには無かったチャネルの共労や受託などの機会を獲得していきたい。
・組織強化という部会名もあいまいなので、次年度以降必要な体制を整えたい。

（5）専門委員会

①　審査認定委員会

・講座開催審査や支援条件整理、指導者修了確認・認定等を行った。

②　安全対策委員会

・水辺体験活動での事故等の発生防止に向けて講座等の実施体制等を注視した。
・川育ライフジャケットの認定ガイドラインの見直しを行い、改定案VerⅣを作成した。

３．川の指導者養成等

RACリーダー養成講座が11講座、アシスタントリーダー養成講座は7講座開催した。令和6年度の夏も猛暑であったので、水難事故が増えた感じが否めない。今後も水辺のリスクが高まっていくことが想定される。身の守り方を伝えるためには川の指導者数を増やすことが必須である。まずは川の知識を広く認知してもらい、日本全国のRACの団体には川の指導者講習会を開催してもらいRACの発行する

資格の優位性を理解してもらう必要がある。

（１）ＲＡＣ川の指導者講座の開催

ＲＡＣリーダー養成講座については全国各地で 11 講座開催した。また、アシスタントリーダー講座については 7 講座開催した。令和 6 年度前半については雨が多く講座開催を中止をする団体もあった。

写真 2. リーダー講座　埼玉県黒目川

写真 3. RAC リーダー講座　福井県足羽川

写真 4. リーダー講座 京都府由良川

写真 5. アシスタントリーダー講座　熊本県緑川

写真 6. リーダー講座 神奈川県鶴見川

写真 7. アシスタントリーダー講座 東京都多摩川

（2）E ボートミーティング開催

来年、令和 7 年度は E ボートが開発されて 30 周年になる、また、来年度の全国大会については美濃加茂市での開催が予定されている。それにちなんで 11 月に岐阜で E ボートミーテイングを開催した。指導者の方々が集い、E ボートの有効な活用事例などを発表し、E ボート活用による体験活動の推進策を議論した。翌日は長良川での E ボート指導者講習会を行った。

写真 8. E ボートミーティング（岐阜）

【各種講座開催及び修了状況】

種別 / 年度	RAC アシスタントリーダー（基礎講座）		RAC 学校リーダー※1		リーダー		インストラクター（Ⅰ）		コーディネーター（インストラクターⅡ）		トレーナー	
	講座数	修了者数	講座数	修了者数	講座数	修了者数	講座数	修了者数	講座数	修了者数	講座数	修了者数
H13(2001)	(12)	(966)	－	－	5	52	0	0	0	0	0	0
H14(2002)	(3)	(83)	－	－	15	528	5	126	0	0	暫定	24
H15(2003)	(4)	(10)	－	－	24	446	3	52	0	0	1	17
H16(2004)	(1)	(14)	－	－	26	387	3	32	0	0	2	16
H17(2005)	(0)	(0)	－	－	27	266	3	25	0	0	1	14
H18(2006)	(2)	(49)	－	－	27	207	3	22	1	4	1	9
H19(2007)	(6)	(141)	－	－	25	376	0	0	0	0	0	0
H20(2008)	(3)	(38)	－	－	26	319	2	0	0	0	0	0
H21(2009)	(4)	(22)	－	－	33	334	4	48	0	0	0	0
H22(2010)	(1)	(12)	－	－	35	338	2	22	2	6	1	6
H23(2011)	(0)	(0)	－	－	33	287	5	43	0	0	1	4
H24(2012)	(3)	(26)	－	－	26	234	3	12	1	7	1	4
H25(2013)	1	7	－	－	18	168	0	0	0	0	1	1
H26(2014)	2	25	3	25	14	131	0	0	2	10	1	2
H27(2015)	5	85	1	10	16	124	0	0	0	0	1	6
H28(2016)	7	78	0	0	14	127	0	0	0	0	0	0
H29(2017)	13	85	1	13	13	108	1	2	0	0	0	0
H30(2018)	10	56	1	0	13	105	0	0	0	0	1	5
R1(2019)	10	70	0	0	14	86	0	0	0	0	1	5
R2(2020)	6	26	0	0	8	62	0	0	0	0	0	0
R3(2021)	6	33	0	0	7	41	0	0	0	0	0	0
R4(2022)	10	111	0	0	11	69	1	3	0	0	0	0
R5(2023)	7	98	0	0	12	55	1	0	0	0	1	3
R6(2024)	9	79	0	0	11	64	0	0	0	0	0	0
計	132	2209	6	48	453	4914	37	390	6	27	14	116

※1　RAC アシスタントリーダーは H25 までは基礎講座の講座数及び修了者

（２）付加資格関連講座・専任講師養成講座の展開

今年は「E ボート指導者講座」が 4 講座、「RAC リスクマネジメント講座」1 講座、「RAC レスキュー講座」が 1 講座開催された。一昨年から開始された「RAC シャワークライミング講座」が 2 講座開催された。

種別 / 年度	水辺のファーストエイド講習		水辺のファーストエイド講習専任講師養成		RAC 水辺の生き物講習会		学校連携コーディネーター養成講座					
							（基礎課程））		（応用課程）		（専修課程）	
	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者
H24(2012)	1	15	1	(11)	0	0	0	0	0	0	0	0
H25(2013)	4	42	0	0	1	3	1	16	1	9	0	0
H26(2014)	3	0	1	0	0	0	3	34	0	0	0	0
H27(2015)	1	20	0	0	0	0	1	10	1	3	0	0
H28(2016)	0	0	0	0	0	0	1	7	0	0	1	3
H29(2017)	0	0	0	0	1	2	1	4	0	0	0	0
H30(2018)	0	0	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0
R1(2019)	0	0	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0
R2(2020)	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R3(2021)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R4(2022)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R5(2023)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R6(2024)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	10	85	1	(11)	2	5	9	81	2	※12	1	3

※修了実習待ち含む。

種別 / 年度	水辺のリスクマネジメント講座		水辺のリスクマネジメント専任講師養成		水辺のレスキュー講習		水辺のレスキュー専任講師養成		Eボート指導者		Eボート指導者専任講師養成	
	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者
H20(2008)	10	180	4	67	0	0	0	0	0	0	0	0
H21(2009)	6	64	0	0	3	18	5	24	3	36	4	27
H22(2010)	2	28	0	0	3	16	0	0	3	26	0	0
H23(2011)	4	51	0	0	8	77	1	3	6	68	1	3
H24(2012)	3	31	0	0	5	29	0	0	9	90	3	9
H25(2013)	4	42	0	0	5	41	0	0	11	115	2	10
H26(2014)	4	18	0	0	2	27	0	0	8	71	0	0
H27(2015)	2	11	0	0	1	12	0	0	14	84	0	0
H28(2016)	3	21	0	0	1	16	2	0	6	38	0	0
H29(2017)	1	21	0	0	2	31	3	16	5	41	0	0
H30(2018)	2	19	0	0	1	11	0	0	4	23	0	0
R1(2019)	1	6	0	0	3	23	0	0	3	16	0	0
R2(2020)	0	0	0	0	1	11	0	0	1	6	0	0
R3(2021)	4	23	0	0	1	11	0	0	6	37	1	5
R4(2022)	1	9	0	0	2	28	0	0	5	30	1	5
R5(2023)	1	8	0	0	1	13	0	0	3	18	0	0
R6(2024)	2	18	0	0	1	11	0	0	4	29	0	0
計	50	550	4	67	40	375	11	43	91	728	11	42

種別 / 年度	シャワークライミング講座	
	講座数	修了者
H30(2018)	−	−
R1(2019)	−	−
R2(2020)	1	40
R3(2021)	3	25
R4(2022)	0	0
R5(2023)	7	65
R6(2024)	2	13
計	13	143

写真 9. シャワークライミング講座（熊本県）

写真 10. レスキュー講座（福岡県）

写真 11. リスクマネジメント講座（東京都）

写真 12. E ボート指導者講座（岐阜県）

４．全国大会等

（１）第 23 回川に学ぶ体験活動全国大会 in 信濃大町

□　開催日時：令和 6 年 9 月 28 日（土）・ 29 日（日）

□　主催：第 23 回川に学ぶ体験活動全国大会 in
　　信濃大町実行委員会

□　場　　所：28 日（土）大町市文化会館エコーホール
　　29 日（日）エクスカーション

A コース：専門ガイドと巡る黒部ダム歴史散策ツアー

B コース：信濃大町『塩の道』宿場町と文化・歴史も
　　学ぶ芸術祭アート作品ツアー

C コース：犀川でラフティング体験

D コース：国土交通省大町ダム見学＆サントリー
　　天然水北アルプス信濃の森工場見学

E コース：青木湖 4 人乗りサップ体験

F コース：aoLAKESIDE CAFE＆青木湖半周クルーズ

写真 13. 黒部ダム集合写真

□ 概　　要：

本大会は RAC の関係者のみではなく開催地の多くの皆様に参加したいただけるような内容としてプログラムが作成された。SDGs について探求学習プログラムなど地元の中学生の体験発表も行われた。基調講演ではお天気キャスターの依田司さんをお招きして「お天気から見える地球の未来」と題して特別講演をしていただいた。

当日は天気も良く朝から黒部ダム歴史散策ツアーが開催された。40 名くらいの方が参加した。

写真 14. ダムカレー

その後、会場の文化会館に戻りいよいよ開催。初めに実行委員長（大町市長）からのご挨拶があり、その後、国土交通省小島河川環境課長からご祝辞をいただいた。RAC 団体会員の事例発表がおこなわれ各地域からの発表があり、その後、次回の開催地木曽川へフラッグがリレーされた。さらに、大町「水の学校」で学ぶと題して、ダムの役割と生活のつながりや鹿島川と青木湖の水利システムの歴史、水資源を守る森づくり活動、大町「水の学校」を体験してなどの発表があった。基調講演ではお天気キャスターの依田司氏から「お天気から見る地球の未来」というテーマでお話をしていただいた。頻繁に起きている異常気象、それを引き起こしている気候変動、地域温暖化、最後に防災について一番大切なことなどをわかりやすくお話をしていただいた。

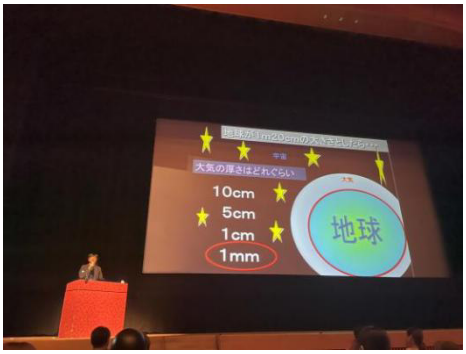


写真 15. 基調講演（依田司氏）

翌日は天気に恵まれて各エクスカーションが開催された。犀川のラフティング、宿場町と文化・歴史も学ぶ芸術祭アート作品ツアー、大町ダムとサントリー天然水北アルプス信濃の森工場見学、青木湖サップ体験、青木湖半周クルーズなどにぎやかなエクスカーションとなった。

写真 16. ラフティング

写真 17. 信濃大町『塩の道』宿場町

写真 18. サントリー天然水北アルプス

写真 19. 青木湖 SUP 体験

５．調査検討事業

（１） 調査検討業務

昨年に引き続き、今年度も信濃川下流河川事務所からの事業で小学校の子どもたちを対象に水難事故防止訓練を行った。当初、7 月を予定でしていたが天候が悪く水生生物観察及び R ボート体験は実施できなかったが三条市防災ステーションで安全講習会を実施した。9 月には別の小学校対象に水質及び水生生物調査など実施した。

名古屋市から庄内川での「庄内川の水環境を学ぼう」ということで E ボート体験を行った。猛暑真っ盛りの 8 月初旬の活動だったが参加者の人達は元気に E ボート体験をしていた。スタッフの方がばて気味であった。

また、今年は河川財団からの受託事業で河川での自然体験活動を通じた幼児教育及び学校教育方策検討、河川管理者を対象に川の指導者養成事業、また、河川におけるライフジャケット着用推進検討なども三つの事業を実施した。幼児のプログラム作りでは東北の保育園、福井の保育園などで実施をした。

写真 20. 水辺の安全講習会（新潟県）

写真 21. 庄内川 E ボート乗船体験

写真 22. 保育園でのガサガサ（宮城県）

写真 23. 川の指導者講習（東京都）

６．広報・普及活動

（１）川育ライフジャケット認定制度の普及

平成 26 年（2014 年）に関係各機関の協力のもと構築した「RAC 川育ライフジャケット認定ガイドラ

イン」に基づいて、令和 6 年 3 月現在、15 種類の製品が認定を受け、水辺シーズンを中心に全国各地の大型スポーツ用品店や、ホームセンター等で提供が継続している。

令和 6 年度は東京都に常設されている「商品等安全対策協議会」が水辺でのライフジャケットの着用推進が検討対象になり R7 年 3 月に報告書が公表された。RAC も特別委員の一人として討議に参画し、RAC マークも他の認定マークと同様に扱われており、これを機会に RAC マークのライフジャケットはもとよりライフジャケットが広く普及することを期待している。

（２）広報活動

・メールマガジン「RAC NEWS」を随時回発行した。また、Facebook なども活用して情報発信を行った。

・ RAC ホームページのリニューアルをしたが更新については鈍い感じである。今後、もっと頻繁にホームページの更新ができるような仕組み作りを行って行く予定である。

（３）川の指導者の資機材

2024 年度については出足は少し遅かったがでたくさんのレンタルの申込があった。大口のレンタルもあり、この大口については毎年レンタルがありそうである。来年も引き続きライフジャケットのレンタルについては申込が多くありそうである。令和 7 年度についてはレンタルの仕組みや昨今の物価高による人件費の値上げなど金額などの改定が必要であると思われる。

ライフジャケットの販売については、年度当初に RAC ブランドを 300 着仕入れ、会員による販売方式も取り入れてライフジャケットの普及を図った。結果として、新製品は 225 着販売できた。今後、ライフジャケットの普及のためにも販売に力を入れて行ければと思う。また、一艇あった E ボートも昨年末に売れてしまい、現時点では E ボートの在庫がなくなってしまった。

【RAC 機材一覧】

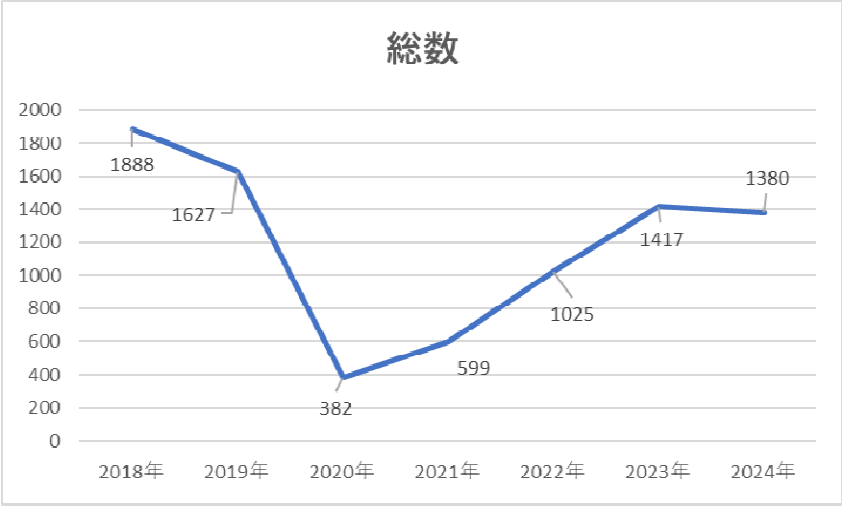
No.	資機材名	数	単位	備考
1	ライフジャケット（幼児用）	52	着	
2	ライフジャケット（低学年用）	122	着	
3	ライフジャケット（子ども用）	492	着	
4	ライフジャケット（大人用）	210	着	
5	ライフジャケット（プロ用）	14	着	
6	ヘルメット（子ども用）	95	個	
7	ヘルメット（大人用）	154	個	
8	スローロープ（15m）	11	本	
9	スローロープ（20m）	35	本	
１０	E ボート	10	艇	グラブナー社 G タイプ
１１	ポンプ	16	個	
１２	パドル	140	本	一部スチール
１３	ウエットスーツ	71	着	

【R6 レンタル状況】

ＰＦＤ	ヘルメット	スローバック	Ｅボート
1177	187	13	3

※自主事業利用含

年度	総数
2018 年	1,888
2019 年	1,627
2020 年	382
2021 年	599
2022 年	1,025
2023 年	1,417
2024 年	1,380



ンタル状況

7．その他

（1）水辺体験イベント等

令和 6 年度はコロナ禍がだいぶおさまり各地域で活動が行われた。

・昨年に引き続きライフセービング協会のサポートでカヌースラローセンターでの水辺の安全講座及び小学校のプールを使っての水辺安全講座を開催した。

・毎年行っている汐濱運河での防災 E ボート乗船体験なども行った。今年は防災を意識して近くのマリーナから物資を E ボートで運ぶ体験も行った。

・株式会社ディー・エヌ・エーからの依頼で川崎駅周辺回遊性向上推進業務の一環として川崎駅から歩いてすぐの多摩川の防災船着場で E ボート乗船会を行った。この E ボート体験はラップなどが会場に流れ今までの E ボート体験とはまた、変わったおしゃれな感じの体験であった。

・ 7 月には企業から協賛していただき、髙島屋さんの協力を得て多摩川の二子玉川で多摩川の環境を学び、水辺の安全講座を開催した。

・ 11 月には沼津の狩野川での水辺の安全講座及び E ボート体験会を開催した。地元の高校生や河川管理者などが乗船体験を行った。狩野川は湧水が流れ込んでいるために下流部でもとても水がきれいで、また翌年の夏に E ボート体験会を行い、その時には川流れも一緒にできればと思っている。

写真 24．カヌースラロームセンター（東京）

写真 25．ライフセービング協会

小学校プールで水辺の安全講座

写真 26. DeNA　E ボート体験　（多摩川）

写真 27. 汐濱運河防災 E ボート

写真 28. 水辺の安全講習会（狩野川）

写真 29. 多摩川から川の環境と安全を学ぼう！

2）河川協力団体

・荒川放水路通水 100 周年記念事業

荒川下流河川事務所・利根川下流河川事務所の河川協力団体関連事業として、関東地域づくり協会の助成を受けて、10 月 12 日に北区岩淵水門の中之島で E ボート体験乗船会を開催した。令和 6 年 10 月 12 日は荒川放水路が通水して丁度 100 周年にあたる。それを記念して昨年から実行委員会ができ、荒川下流河川事務所などのイベントの一環として防災を学びながらの乗船会を行った。

当日受付方式で、5 艇の E ボートで約 45 分のコースとしたところ、5 艇がフル回転であった、家族連れ、事務所主催の講演会参加者、友人どうしなど約 200 名の方々に E ボートを体験していただくことができた。ボート上では荒川放水路や岩淵水門の歴史、過去の出水記録のことについても解説した。時間を過ぎてからも乗れないのかとひっきりなしに申し込の問合せが来るほどであった。今後もこのような活動が継続できれば荒川をもっと地域の方々に知って貰うとととともに水害など防災についても啓発ができると期待できる。

写真 30. E ボート乗船防災体験

写真 31. 岩淵青水門前乗船体験

写真 32. 岩淵水門　青水門前

写真 33. 乗船会受付風景